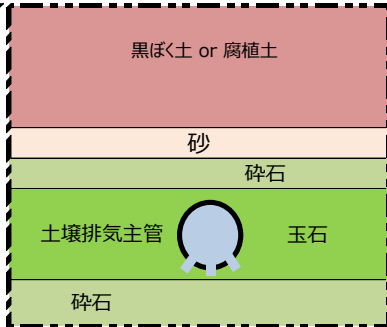




おさらい

事業方針：丁寧な・熱心な作業も技術の一つです！

土壌脱臭装置は場所を選びます！ 雨水の地下浸透が捗々しくない箇所は、排気ファンに負担が掛かります！



土壌脱臭断面図



土壌脱臭装置、埋設設置箇所



土壌脱臭装置、埋設臭気配管内の水溜まり

装置の概要

- 当該dsp排水処理槽の臭気・排気システムは、屋上排気拡散方式でなく、排気の臭気を無くする土壌脱臭方式を採用しています。
- その土壌脱臭装置は使用開始当初より、豪雨時に設置敷地は水浸しで、排気の水泡がブクブク発生し、閉塞を生じて土壌脱臭ファンに負荷が掛かっていました。
- 高負荷が生じたときは点検掃除口を緩めて、土壌脱臭内の溜水を吹き飛ばし何とか凌いでまいりました。しかし長年の集中豪雨で装置内の有孔管・排気穴と土壌は閉塞し配管内に水が溜まり、点検時の掃除口解放水抜きでは、不具合解消できない深刻な状態となってまいりました。よって問題解決の方法を探っています。

改善提案

- ① 雨水や臭気配管内の結露雨水は、臭気配管より排水し地下浸透できない状態なので、土壌脱臭敷地内に、浸透枡を設置し雨水を集水してポンプアップを図る。この場合、ポンプ運転の動力を要します。
- ② 土壌脱臭の埋設配管まで掘り起こし、その配管上部に排気口を設ける。そこから土砂が入らない排気装置を取り付ける。そして取り付けした上部開口より排気する。排気口は排気量に見合った数とする。この場合、排気主管上部に被覆する砕石等は入替が求められます。
- ③ 当該土壌脱臭装置を全部掘り起こし、土壌に雨水が浸透するように土壌を作り変える。多額の費用を要します。
- ④ 最もおすすめの改善策は、
※ dsp排水処理槽内の臭気を取り除く。そのためには処理槽にdsp・HVシステムの設置が必要です。
臭気の無くなった排気は、土壌に排気でなく地上に拡散できます。

水物語 No127

去年は池波正太郎、生誕100周年でした！



青年・池波正太郎

テレビのチャンネルを回せば、「鬼平犯科帳」「剣客商売」「仕掛け人・藤枝梅安」が、飽きることなく放映されています。区の図書館には池波シリーズが並んでいます。

作家・池波正太郎は（1923-1990）東京浅草生まれました。下谷・西町小学校を卒業し茅場町の株式仲買店に就職。占領下に東京都職員となり、下谷区役所勤務しながら「新国劇・長谷川伸の脚本・演出を担当していました。

1955年（昭和30年）1月、劇作における代表作のひとつ『名寄岩』が上演され、自ら演出をも行った。これにより文筆によって立つ自信を得て、都職員を退職（あえて昇進を断り、外回りの職に徹しており、この時期は目黒税務事務所にて収税を行っていた）。

その後は、歴史小説・時代小説を執筆活動の中心に据えるようになった。『恩田木工』は翌年、56年下期の直木賞候補となるものの落選。以降劇作と平行して着実に小説の執筆をつづけ、1959年（昭和34年）9月には処女作品集『信濃大名記』を光書房から上梓する。この間『眼』（57年上期）、『信濃大名記』（同下期）、『応仁の乱』（58年下期）、『秘図』（59年上期）で計5回直木賞候補となるも、選考委員であった海音寺潮五郎の酷評もあり受賞には至らなかった。しかし、1960年、「錯乱」で直木賞受賞することとなり、筆は止まることなく走り続けました。

東京都墨田区は、鬼平犯科帳・長谷川平蔵さんが住まっていた処であり、随所に表記が立っています。「白昼の宝石店強盗」物騒な世の中です……。鬼の平蔵さん、江戸から令和へタイムスリップして治安強化を図って欲しいものです……。

特許

油脂ゼロポンプ槽推進中！

dsp・ハイブリッドシステム推進中！ クリーンテックサービス東京